



柴山伏越

元荒川の川底を見沼代用水路が潜りぬけます。享保12年(1727)に井澤弥惣兵衛為永の指揮によって工事がおこなわれました。見沼代用水路は2019年に「世界かんがい施設遺産」に登録されました。



常福寺

柴山にある曹洞宗の寺で除堀（現久喜市）の不動寺の末寺。山号は聚光山。由緒は不詳。本尊は不動明王。常福寺には寺の前を流れる見沼代用水の開削に当たった紀州流土木技術者である井沢弥惣兵衛為永の墓石がある。



柴山諏訪八幡神社

柴山地区の西端にある村の鎮守。菖蒲城主佐々木源四郎秀綱の創建と伝えられている。佐々木氏は、宇多源氏の末裔と称しており、源氏の氏神である諏訪社と八幡社を勧請したものである。社殿は本殿、幣殿、拝殿。拝殿の中には絵馬や掲額が数多く残されており、いずれも江戸後期以降のもので市の指定文化財になっている。



柴山沼

大山地区のほぼ中央に位置し、元荒川の下浸作用によって形成された河川跡。県内の自然沼としては、川越市の伊佐沼に次ぐ広さの沼。面積は12.5ヘクタール、水深は約8メートル。平成4年度から始まった県営水環境保全事業によるビオトープ（生態系の保全、復元）などの整備により、さらに親しみやすい沼になった。柴山沼は格好の釣り場として、多くの釣り人が年間を通して訪れている。